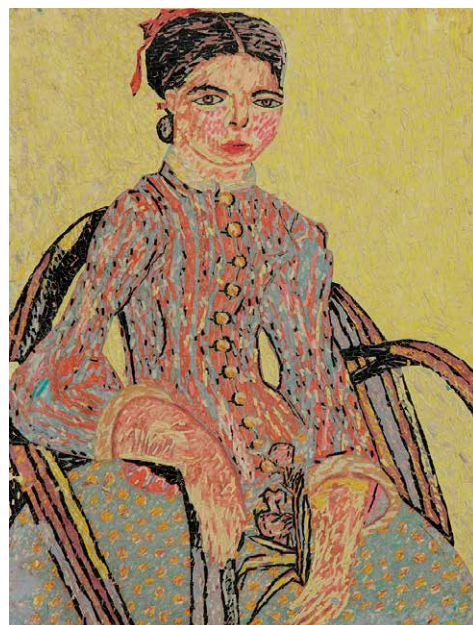


神戸ファッション美術館 特別展  
「生誕100年 山下清展—百年目の大回想」  
2022年6月25日(土)～8月28日(日)

あなたは山下清を知っていますか。

「放浪の天才画家」として知られる山下清。ドラマや映画での姿が印象的ですが、甥の山下浩氏によれば、外出する時の服装はジャケットとスラックス、そしてベレー帽。イメージを払拭するためだったそうです。しかし私たちは、そんな姿を知りません。本展では、生誕100年を迎えた山下清の「真の姿」を、約170点の作品を通して体感できます。

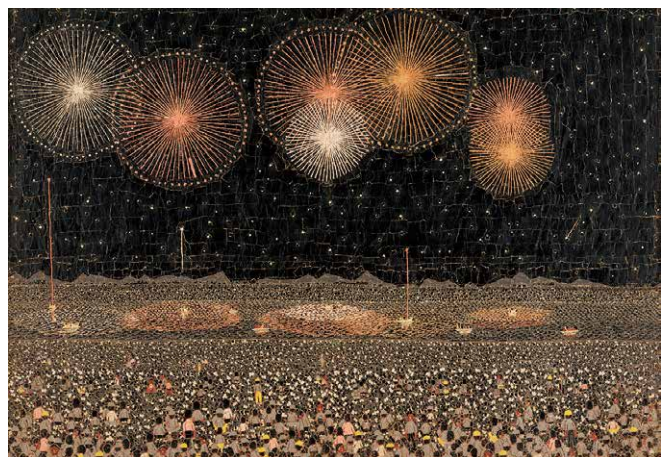
時代を追った5つの章からなる構成は、▽あまり知られていない幼少期の作品もある1章「山下清の誕生—昆虫そして絵との出会い」▽学園時代の友達を描いた貼り絵などの2章「学園生活と放浪への旅立ち」▽画家としての名声を作り上げていった時代の多彩な制作スタイルの作品群の3章「画家・山下清のはじまり—多彩な芸術への試み」▽1961年に訪れたヨーロッパで見た風景の貼絵、ペン画、水彩画を楽しめる4章「ヨーロッパにて—清が見た風景」▽壺や大皿などの陶磁器の作品も並ぶ5章「円熟期の創作活動」となっています。



《ラ・ムスメ(娘)—ゴッホによる》  
貼絵／1940(昭和15)年  
© Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2022



神戸ファッション美術館  
学芸員 中村 圭美



《長岡の花火》貼絵／1950(昭和25)年  
© Kiyoshi Yamashita / STEPeast 2022

清は写生をあまりしなかったそうです。見た光景を記憶し創作しました。見たものが一旦、彼の体に入ることによって、作品が生み出されるときに物語も紡がれます。それはあたたかく、ユーモラスに私たちに語りかけ、そして新たな物語を想起させます。貼絵の制作は、紙を手でちぎって行いました。代表作《長岡の花火》では、打ち上げられた大輪は「こより」状にした色紙を放射状に貼り付けて表現し、河川敷の人びとの姿は画面中央へ向かうにつれてチップを小さくちぎって描写し、水面に反射する花火はより細かくちぎって点描のように表しました。多彩な技法による繊細さは、本物を目の前にしてはじめて感じることができます。今年の夏はぜひ、神戸ファッション美術館で、山下清の実像に触れてみてください。

※展覧会の詳細は神戸ファッション美術館のHP (<https://www.fashionmuseum.jp/>) をご覧ください。なお、新型コロナウイルスの感染拡大状況に応じて、展覧会の中止や変更をさせていただく場合があります。ご来館の際は、当館HPなどで最新情報をご確認ください。